

月刊 やちまなこ

2022. 1.15 発行

No.290

1月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

午前6時を過ぎ、東の空が淡い茜色の中に丘陵地の影が見えて来た。2022年正月を迎えた釧路湿原は気温氷点下20度となり、毎年日の出を見ようと展望地へ向かう道の先にエゾシカたちが陣取っていた。中には林内でうずくまって、じっとこちらを見ているものもいた。冷たいより痛いくらい、手足の指先をまるで剣山で刺したような痛さだ。展望地へ着いてしばらくすると樹氷輝く湿原の先に見える街並みは冷気による蜃気楼現象で、オレンジ色に染まりながら、刻々とその姿を変えていた。



塘路フィールドノート【12/15～1/14】

【野鳥】

昨年に引き続き、今年も冬鳥の飛来状況は今一つのようなようです。ただ、オオワシ・オジロワシや留鳥であるキツツキ・カラ類などはよく観察されており、わずかに残った水辺ではカモやオオハクチョウが見られることもあります。



アカゲラ (蝶の森)

「キョッキョッ」の鳴き声とともに近くの木に飛来。森の中でたびたび姿を見かけます



コゲラ (蝶の森)

ここ最近、最もよく見かけるキツツキ。カラ類などとともに行動していることもあります



キクイタダキ (フィトンチッドの森)

冬になると湖畔にやってくる小さな小さな鳥。常緑のマツで見かけることが多いです



キバシリ (塘路湖畔)

「木を走る」鳥が珍しく地上に降りていました。餌となる虫を探していたのでしょうか



(シマ) エナガ (塘路湖畔)

センター前の木に飛来したところ。ちょうど正面を向いてポーズを取ってくれました



ヒヨドリ (塘路湖畔)

樹上で羽繕い中。「ピーヤピーヤ」の賑やかな鳴き声が静かな湖畔に響き渡ります

【植物】

しおれて瑞々しさを失った果実、茶色く変色した果実の痕、すっかり葉を落とした樹木の枝など、一見侘しく見える厳冬期の植物たち。しかしそこには、夏の華やかで生き活きとしたイメージとは一味違う威厳を感じます。



エゾウコギ (フィトンチッドの森)
トゲトゲの枝とドライフルーツ状の果実。森の中をよく探すと、意外に多く見つかります



イヌエンジュ (塘路湖畔)
茶色く変色した果実(豆果)。マメ科の特徴であるさやの形がはっきりと残っています



トドマツ (フィトンチッドの森)
周辺では少ない常緑のマツ。青々とした針葉は厳冬期の森で抜群の存在感を放ちます



ヤマブドウ (フィトンチッドの森)
藪の中に残っていた果実。込み入った枝で小鳥たちが近づけず食べ残されたようです



エゾトリカブト (塘路湖畔)
散策道沿いでちらほら見られる果実の痕。霧氷をまとい真っ白になっていました



ミズナラ (塘路湖畔)
湖畔で少数見られる冬でも落葉しない個体。冬枯れの木立の中で一際目立つ存在です

◎3年連続…

今年も塘路湖の冬の風物詩である御神渡りは現れませんでした。御神渡りは昼夜の寒暖差で氷が収縮と膨張を繰り返すことによって氷がせり上がる現象ですが、今年現れなかった要因としては、全面結氷(12月19日)の2日後に数cmの雪が積もってしまったことが大きいようです(雪には断熱効果があるので、寒暖差が生まれづらくなるため)。

御神渡りが不発に終わるのは、これで3年連続。今年は残念な結果になりましたが、確率的にはそろそろ現れてもいい頃なので、また来年に期待したいと思います。



真っ平らな湖面。今年は結氷後、氷の動きがほとんど見られませんでした

◎「冬の観察会」のはずが…

12月18日(土)、初冬の塘路湖畔を散策する観察会を開催しました。例年であれば湖面が結氷し、フィールドは雪化粧をする「初冬」ですが、今年は当日まで湖面がほとんど結氷しておらず、雪も前日になってようやく数センチ積もった程度。おかげで当初予定していた塘路湖の氷の観察はあきらめざるを得ず、氷上にたたずむオオワシ・オジロワシの姿も見られませんでした(代わりに例年であればもういないはずのカモを観察することに…：写真上)。

想定外の状況にはなりましたが、冬を感じられないなら他の季節を感じようということで、秋の名残の赤い木の実や春と勘違いして顔を出した気の早いフキノトウなどを紹介しました。また、森の中ではシマエナガの群れに遭遇し、参加者の皆さんは双眼鏡を使って「雪の妖精」の姿を夢中で追いかけていました。参加者 11名



◎連凧を作りました

1月8日、「連凧を作って揚げよう」を開催しました。はじめに今回揚げる凧について説明



したあと、凧の用紙に文字やイラストなどを描いてもらい、竹ひごを糊で付けて骨組みをして糸をつけて完成させました。2枚の凧が糸でしっかりと繋がっているのを確認してから、塘路湖へ向かいました。風は弱かったようですが、上手く凧を捕えた凧は青空に映えていました。その様子を見て子供も大人も大喜びでした。参加者9名

2月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

釧路湿原フィールドウォッチング

[日 時] 2月5日(土) 10時～12時

[定員・参加料] 10名 無料

[開催場所] シラルトロ湖畔・蝶の森周辺

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

アイヌの自然観～カムイ編～

[日 時] 2月6日(日) 10時～12時

[定員・参加料] 10名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 12/15(6:45,15:49). 12/31(6:52,15:57).1/14(6:51,16:11)

～編集後記～

■ダブル低気圧の影響で積雪が一気に20cm前後の積雪となりました。水分を多く含んだ雪は、まるで3月を思わせるような雪でした。結氷が半月以上遅れた塘路湖では冬の風物詩であるワカサギ釣りが解禁となり、週末は数多くのテントが立ち並んでいました。間もなく冬のSL冬の湿原号も運行されますが、今年もコロナ感染対策の下、冬の観光シーズンの幕開けとなります。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～16:00

(4～10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料